

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-198744

(P2005-198744A)

(43) 公開日 平成17年7月28日(2005.7.28)

(51) Int.Cl.⁷

A43B 3/12

F I

A43B 3/12

A

テーマコード (参考)

4F050

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2004-6418 (P2004-6418)
 (22) 出願日 平成16年1月14日 (2004.1.14)

(特許庁注：以下のものは登録商標)

1. マジックテープ

(71) 出願人 303065418
 川原 英樹
 福岡県北九州市門司区柳町2丁目4-18
 (72) 発明者 川原 英樹
 福岡県北九州市門司区柳町2丁目4-18
 Fターム(参考) 4F050 AA12 BA03 BA52 BA54 BA59
 GA02

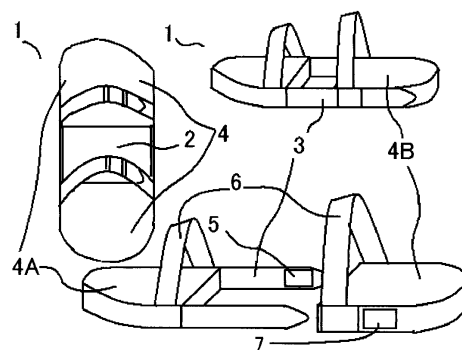
(54) 【発明の名称】 底部分に空間部を有し、長さ調節可能なサンダル。

(57) 【要約】

【課題】従来のサンダルの涼しさ軽快さは、サンダル本体1の上部分6の形、デザインなどで考えられており、特に暑がりの方は足の裏も涼しければとよくはだしになることが多く、足の裏と底部分4の密着度が高いため、はだしになると、汗により足の裏のにおいに悩まされる。

【解決手段】サンダル本体1の涼しさ軽快さを増し、また足のにおいを解決するため図1のサンダル本体1の底部分4に空間部2を設ける、サンダル本体1の底部分4を前部4Aと後部4Bに分割し、底部分4の前部4Aの両側部の、帯状物3に設けた連結可能な手段5と、後部4Bの両側部に設けられる連結受け止め可能な手段7を連結し底部分4の前部4Aと後部4Bの間に空間部2を設ける、連結可能な手段5と連結受け止め可能な手段7をずらして連結することで底部分の長さを調節可能とする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

サンダル本体の底部分に、空間部を設けたことを特徴とするサンダル。

【請求項 2】

前記サンダル本体の底部分を前部と後部に分割し、前部の両側部に先端に連結可能な手段を有する帯状物を設け、後部の両側部に前部両側部に設けた帯状物を連結受け止め可能な手段設け、前部と後部を連結し前部と後部の間に空間部を設けたことを特徴とする請求項 1 記載のサンダル。

【請求項 3】

前記サンダル本体の底部分の、前部の両側部に設けた帯状物の先端に有する連結可能な手段と、後部の両側部に設けた連結受け止め可能な手段をずらして連結することにより、底部分の長さを調節可能にしたことを特徴とする請求項 1 と請求項 2 記載のサンダル。 10

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

この発明は、サンダルの底部分の形状に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来のサンダル、スリッパなどに用いる底部分 4 の形状は、図 2 に示すように空間の開いてないものが、一般的に用いられており、サンダル本体 1 の上部に用いられる上部分 6 の露出度を高めること、又デザイン、形により、軽快さ、涼しさが、求められた物である。 20

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

しかしながら以上の技術によれば、涼しさ軽快さは、足の甲の部分サンダル本体 1 の上部分 6 にだけ考えられており、特に暑がりの方は足の裏も涼しければと、よくはだしになることが多く、足の裏と底部分 4 の密着度が高いために、はだしになると汗により、足の裏のにおいに悩まされることが多かった。そこでこの発明は、サンダル本体 1 の足底部分 4 に空間部を設けて、暑さやにおい、不快感の解決を課題とする。 30

【課題を解決するための手段】**【0004】**

以上の課題を解決するために第一発明は、サンダル本体の涼しさ軽快さを増すため、または、足の裏のにおいを解決するために足底部分に空間部を設けたサンダルである。また、第二発明は、サンダル本体の足底部分を前部と後部に分割し、前部に設けた連結可能な手段を有する帯状物と後部の連結受け止め可能な手段を連結し、前部と後部の間に空間部を設けたサンダルである。

そして、第三発明はサンダル本体の足底部分、前部の両側部に設けた帯状物に有する連結可能な手段と、後部の両側部に設けた、連結受け止め可能な手段をずらして連結することで底部分の長さを調節可能にしたサンダルである。 40

【発明の効果】**【0005】**

第一発明、または第二発明、第三発明によれば、足の裏も涼しく、汗をかかず、におわなく、底部分の長さの調節ができるので、無駄な生産も少なくなる。

【発明を実施するための最良の形態】**【0006】**

この発明の一実施形態を、図 1 に示す。サンダル本体 1 の底部分 4 には、空間部 2 が設けられており、底部分 4 は、前部 4 A と後部 4 B に分割され、底部分 4 の前部 4 A の両側部に帯状物 3 を設け、帯状物 3 の先端に連結可能な手段 5 を設け、底部分 4 の後部 4 B の両 50

側部には、前部 4 A の帯状物 3 の先端の連結可能な手段 5 を受け止める、連結受け止め可能な手段 7 が設けられており、前部 4 A と後部 4 B を連結することができ、前部 4 A と後部 4 B の間に空間部 2 を設けることができる、そして底部分 4 の前部 4 A と後部 4 B の両側部に、足の甲を受け止めるサンダル本体 1 の上部分 6 が設けられてある、そして前部 4 A と後部 4 B の両側部の連結可能な手段 5 と、連結受け止め可能な手段 7 をずらして連結することで、底部分 4 の長さの調節ができる。サンダル本体 1 の底部分 4 はゴム製や革製など一般的に用いられるものを使用し、特に指定はなく、底部分 4 の前部 4 A の両側部に設けられている帯状物 3 もゴム製や皮製など一般的に用いられる丈夫なものを使用し、特に指定はない、底部分 4 の前部 4 A の、連結可能な手段 5 はマジックテープやマジックファスナー（登録商標）等一般的に用いられるもので使用し、特に指定はなく、後部 4 B の両側部に設けられる連結受け止め可能な手段 7 にはマジックテープやマジックファスナー（登録商標）などを受け止めるものが使用されている。底部分 4 の前部 4 A と後部 4 B について足の甲を受け止めるサンダル本体 1 の上部分 6 のも指定はなく、ゴム製や皮製等の一般的に用いられる丈夫なものがよい。

10

【 0 0 0 7 】

この実施形態によれば、このサンダル本体 1 の底部分 4 に空間部 2 を設けたことで、足裏はより涼しく、快適感、足のにおい等を解決し、さらには、底部分 4 の前部 4 A の両側部の帯状物 3 に設けた連結可能な手段 5 と、後部 4 B の両側部の連結受け止め可能な手段 7 をずらして連結することにより、底部分 4 の長さの調節ができ、多数のサイズを作る必要性がなくなり、無駄な生産、コスト等の問題も解決する。

20

【 0 0 0 8 】

「他の実施形態」

図 1 の実施形態では、サンダル本体 1 の底部分 4 の前部 4 A と後部 4 B は分割することができるが、他の実施形態では、分割するものではなく空間部を有するだけのものでもよい、また上部分 6 の形、デザインに関しては違ったものでもよい。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 0 9 】

【 図 1 】 この発明の一実施形態を示す斜視図である。

【 図 2 】 従来のサンダルの一実施形態を示す斜視図である。

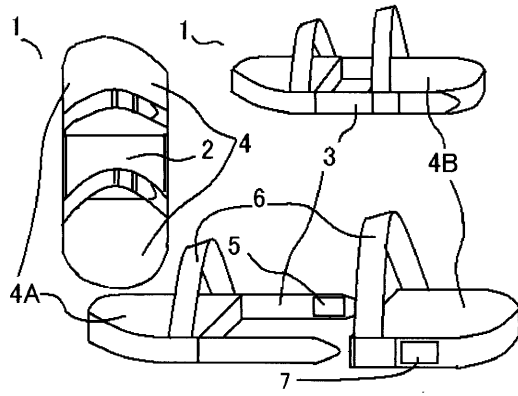
30

【 符号の説明 】

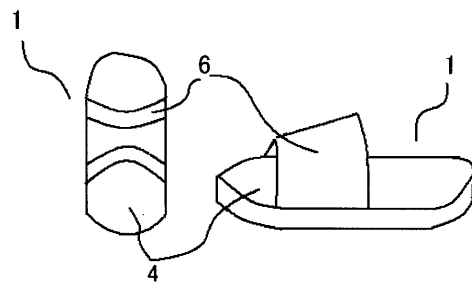
【 0 0 1 0 】

1 サンダル本体 2 空間部 3 帯状物 4 底部分 5 連結可能な手段 6 上部分 7 連結受け止め可能な手段 4 A 前部 4 B 後部

【図 1】



【図 2】



フロントページの続き

【要約の続き】